

# 市民が講師 学生学ぶ



## 育

@キャンパス

多彩な分野で活動する人たちが「市民講師」となる講座「せんだい・みやぎオータムセミナー」が12日、仙台市青葉区の東北学院大学土樋キャンパスで開かれた。同セミナーは今年で3回目。約1100人の大学生らが詰めかけ、等身大の大人たちの話に聴き入った。  
(安仁周)

## 普段出会えぬ人から

## さまざまに人生知る

「ホワイトリボンを知っていますか。ゲイであることに悩み、自殺してしまう人を救うための運動です」

市民講師の内海章友さん(34)は自らをゲイと紹介した後、同性愛者を取り巻く現状や自身の体験などを話し始めた。

小さな講義室に集まった約10人の学生らは、内海さんが持参した性的少数者に関する大量の資料をめくりながら話に耳を傾けた。「統計上では、クラスに1人は性的少数

者がいる計算。隠し続けて悩んでいる人もいるんだということに気がとめて欲しい」。内海さんはゆつくりと、呼びかけた。

## NPOが開催

セミナーは、地元のNPO法人「ハーベスト」が学生向けに開いている。会場は大学のキャンパスで、1コマ50分で、計約200講座の中から自由に受講できる。講師は経営者や公務員、会社員、市民活動家やホームレスなど多岐にわたる。

愛知県で毎年、高校生を対象に市民講師らが約13000の講座を開く「愛知サマーセミナー」がモデルだ。ハーベスト代表理事の中山聖子さん(30)らが中心になり、07年から始めた。「最近が良い意味でおせっかいな人が減り、大人から話を聞く機会も少ない。大人と若者の出会いの場を提供したいと思った」と中山さんは話す。

講義の内容はさまざま。講師は自身の体験をもとに「生き方」や「働き方」を自由に語る。

「夢がなくても大丈夫。ゆつくり見つけて」と飲食店経営の八尋豊さんは呼びかけた。東北学院大土樋キャンパス

「自分が大学生のころに出会っていたら、人生の価値観が変わっていただろうなと思う人が、講師選考の基準」と中山さん。講座数は年々増え、参加した学生からは「どれも聞きたくて迷ってしまふ」という声が多く寄せられるという。

## 堅苦しくなく

将来は飲食店を経営したいという東北学院大3年の武者由貴さん(21)は、仙台市の国分町で飲食店を経営する男性

の講座を受講。「普段は会えないような人に出会える。実際に店を経営している人から、堅苦しくない話を聞いたのが良かった」と話した。

東北福祉大2年の小松まりなさん(19)は、昨年に続き2回目の参加だ。「いろんな生き方があるんだ。夢を持って突っ走っても良いんだって思えるようになった」と笑顔だった。

来秋のセミナーに向けて、すでに動き出しているという中山さん。「たくさん大人の

の思いに触れ、その出会いが新たな一歩を踏み出すきっかけになったら」と話している。